



プロジェクト名称

空き家改修プロジェクト

プロジェクト活動概要

静岡県東伊豆町における、空き倉庫（地元消防団器具倉庫跡）の改修プロジェクトです。使用されなくなった空き倉庫にシェアキッチンを導入し、地元住民と協働で改修することで、地域コミュニティの拠点づくりを行います。

東日本大震災以降、被災地に限らず地域コミュニティの重要性が問われています。現在、対象地である東伊豆町には地元住民が気軽に集まることが出来るような場所がなく、コミュニティの希薄化が問題視されています。また、高齢化、過疎化などの問題に伴い空き家、空き倉庫の問題が露呈されています。そこで、使用されなくなってしまった空き倉庫にシェアキッチンを導入し改修することで、地域コミュニティの場をつくることを目的とします。また、東伊豆町を訪れる観光客には、食に関心をもつ方が多いというデータもあり、観光客と地元住民が交流する場として機能することも期待できます。空き家を改修することが目標ではなく、その後の運用を通じた コミュニティを創出していきたいです。

活動状況報告&活動写真など 活動期間：2015年6月20日～9月30日

1 週間に 1 回ミーティングを行い、次回の施工で行うことや今後の活動について話し合う場を設けました。6月は主に設計の内容を詰める話し合いをしました。経済性、耐久性、施工性の面からよいと考えられるパレットを使った設計を行っていくことになりました。7月は、設計の話をつめていきながら、地元の電気、水道、大工さんたちと連絡をとり、打ち合わせをしました。8月は6～8日、29日～9月4日、9月22日～23日で現地に行き、施工を行いました。

・8月6日～8日

施工内容としては、主に外装、シャッター塗装をしました。外壁の「第六分団器具置き場」とシャッターの「火の用心」の字を複製しました。また、キッチンの墨だし、内装塗装、足場組み立て、エンセキの破壊、間伐材の製材も行いました。



第六分団 以前の外装



第六分団 複製後



間伐材製材



エンセキ破壊

・ 8月29日～9月4日

1階はファサードの設計・間伐材の切り出し・塗装・組み立て・取り付け、床は清掃・透明樹脂塗装、パレットは搬入・やすり・塗装・設置を行った。階段は階段の補強、壁のやすり・天井の養生（雨漏りがひどかったため）を行いました。2階は壁のベニヤ板の切り出し、黒板塗料塗装を行いました。パレット搬入を行い、設置せずに可変できるシステムを取り入れました。また、初日には地元の方とワークショップとして、施工を一緒に行いました。空き家利活用推進協議会では、2月の本イベントについて、11月のプレイベントについて企画・プロモーションに分かれて話し合いが行いました。



階段補強



2F ベニヤ板に黒板塗料を塗装



WS 透明樹脂を塗る



ファサード製作

・9月22日～23日

キッチン収まりの確認、IH 設置しました。それに伴い、電気、水道が通るようになりました。

1階のファサード施工が完了し、間伐材による新しい建具やパレット、キッチンによりようやく形が見えてきました。2階は雨漏りがひどく、床や壁が腐りかけていたが、屋根の修復により雨漏りはなくなり、床や壁を新しく貼り直しきれいにしました。

地元の方の協力のおかげで設備を補うことができ、自分たちだけで成功しているわけではないことを強く実感しました。



1F 外観



キッチンとパレット



2F 黒板塗料



地元の方とキッチンを取り付ける

今後の活動計画、目標、意気込みなど

ダイロクキッチンを開くために、プレイベントを11月14日に行います。プレイベントの目的としては、たくさんの地元の方々のおかげで施工することができたため、そのお返しとして、地元の方々向けに感謝の気持ちを伝えるプレイベントを企画しています。今後、地元の方の使い方をアピールし、パレットの置き方によって空間の変化を与えることを感じてもらいます。

本イベントは、2月27日、28日を予定する。一日二部構成で団体に使ってもらうことを考えます。それぞれ違う団体につかってもらうことで、時間帯によってパレットを並び替え、パレットによって空間が変化することを理解してもらおうと同時に、ダイロクキッチンが様々な顔をもつことを認識しても



らいます。様々使い方を示し、今後のパレットの配置の仕方を記録として残していきます。

情報の拡散として、「ダイロク通信」という回覧板の発行を行います。地元の人が読みやすいものにするために、ヴィジュアルを意識して作ります。現在は 10 月に一部、「ダイロクキッチン」を発行しています。イベント前などに発行していき、地域に伝達し、呼びかけできるようにします。

また、地元の人だけでなく、情報を知ってもらうため、広げてもらうためにもホームページやフェイスブックなどを利用し、さらに更新していくことで記録が積み重ねていけると考えています。

1 年間の活動をまとめたものを 1 冊にまとめたものを years book として作成しています。これからも空き家改修プロジェクトは続けていきたいので、自分たちの活動を見直す意味と、方向性を見失わないようにする目的として作成しております。

これからはある程度施工が終わり、運営のほうに力を注いでいかなければならないと思っています。建築は作っただけでは意味がなく、使う、利用されることで本来の価値を見出せると考えています。だから、改修するだけで終わるのではなく、その後の運用を通じた コミュニティを創出していきたいです。